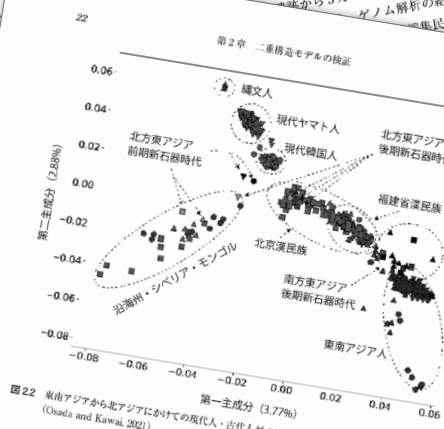


現在につながる人類の一部は約6万年前にアフリカ大陸からユーラシア大陸に移動し、その後全世界に拡散した。ユーラシア大陸に移住した人類は、再び東アジアで混血して現在のルートを分けて移動し、再び東アジアで混血して現在のルートを分けて移動した。この過程は古代ゲノムの解析により明らかになった。この過程は古代ゲノムの解析により明らかになった。この過程は古代ゲノムの解析により明らかになった。

● 6.1 東アジア人はどこからきたのか

東アジアはユーラシア大陸の最も東に台湾、朝鮮半島、日本列島が含まれる地域で、そのゲノム多様性を考えるために、約6万年前のアフリカ大陸から全世界への人類の拡散を述べる。

東アジアで現在の人類と遺伝的に人骨は中国の田園洞で発見された約4万年前の人類は中東を経由してユーラシアで東方に移動した集団に分かれた。



その後、時間が経ち農耕が広がるにつれて、ふたつの集団は中国内では融合していき、北方東アジア的な遺伝的要素はチベット、朝鮮半島、ヤポネシアまで拡散、南方東アジア的な遺伝的要素は南下して東南アジアに進出するとともに、台湾を経由してフィリピンやポリネシアまで拡散したと考えられている。ただし、Wang et al. (2021) のモデルでは、ここで私が指している南方東アジア的特徴のある程度が、旧石器時代人の特徴から由来しているとされている。実際、多くの東アジア沿岸部の集団が縄文集団と弱いながらも親和性をもつことが報告されている (Kanzawa-Kiriyama et al. 2019; Gakuhari et al. 2020)。北方・南方東アジア人集団という名前はあくまでも、新石器時代の初期にはそのような異なった遺伝的特徴をもつ集団があったであろう、ということ

ふたつの集団の融合 縄原は、中国では歴史時代の戦争などを経て人々が

【キリトリ線】

ご希望のお客様は、下記よりご確認ください。

※価格は本体価格です

ヤポネシアの現代人ゲノム	ProductID : KP00114217	販売対象機関：すべての機関
同時アクセス数 1 : 13,200 円	同時アクセス数 2 : 19,800 円	同時アクセス数 3 : 26,400 円
ヤポネシアの古代人ゲノム	ProductID : KP00123193	販売対象機関：すべての機関
同時アクセス数 1 : 13,200 円	同時アクセス数 2 : 19,800 円	同時アクセス数 3 : 26,400 円
ヤポネシアの動植物ゲノム	ProductID : KP00123194	販売対象機関：すべての機関
同時アクセス数 1 : 13,200 円	同時アクセス数 2 : 19,800 円	同時アクセス数 3 : 26,400 円
ヤポネシアの考古と言語	ProductID : KP00123195	販売対象機関：すべての機関
同時アクセス数 1 : 13,200 円	同時アクセス数 2 : 19,800 円	同時アクセス数 3 : 26,400 円

紀伊國屋書店 デジタル情報営業部 Mail: ict_ebook@kinokuniya.co.jp



ゲノムでたどる、ヤポネシア人(日本列島人)のルーツと多様性

シリーズ

〈ヤポネシア人の起源と成立〉



Origin and Establishment
of Yaponeseans

全4巻

斎藤 成也

(国立遺伝学研究所名誉教授)
[シリーズ監修]

各巻A5判並製・192～244頁



1 ヤポネシアの
現代人ゲノム

2 ヤポネシアの
古代人ゲノム

3 ヤポネシアの
動植物ゲノム

4 ヤポネシアの
考古と言語

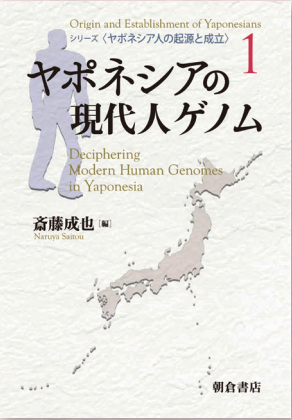
シリーズ完結!



読者対象

生物学・遺伝学・人類学・考古学・言語学などの分野の学部生以上、
大学図書館、公共図書館

現代人のゲノム解析から明らかとなるヤポネシア人の多様性



齋藤 成也
(国立遺伝学研究所名誉教授) [編]

A5判/192頁
978-4-254-17791-6 C3345

2025年3月刊行

1 ヤポネシアの現代人ゲノム

【目次】

第Ⅰ部 現代ヤポネシア人ゲノムの全体像	
1 「内なる二重構造」モデルの検証	[齋藤成也]
2 二重構造モデルの検証	[長田直樹]
3 ヤポネシア人ゲノムの多様性	[大橋 順]
4 ヤポネシア人のY染色体多様性	[佐藤陽一]
5 ゲノム規模SNPデータで探る地域性	[鈴木留美子]

第Ⅱ部 現代ヤポネシア人ゲノムから見た地域多様性

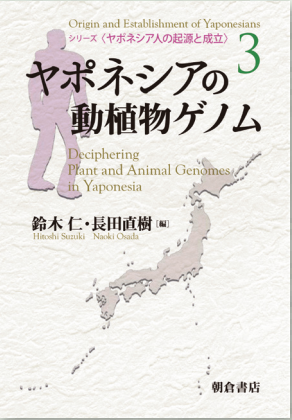
6 東アジア人のゲノム構造	[河合洋介]
7 九州ヤマト人のゲノム	[三嶋博之・中岡博史・河村優輔・細道一善・井ノ上逸朗・吉浦孝一郎]
8 先史琉球とゲノム研究	[木村亮介]
9 宮古諸島人のゲノム解析	[松波雅俊]

第Ⅲ部 ゲノムと形質との関連

10 ヤポネシア人の寒冷適応能	[中山一大]
11 SNP以外のゲノム変化	[藤本明洋]
12 ピロリ菌のゲノム解析	[山岡吉生]



身近な動植物の起源から見えてきたヤポネシア人の姿



鈴木 仁
(北海道大学名誉教授) [編]

長田 直樹
(北海道大学大学院情報科学研究院) [編]

A5判/240ページ
978-4-254-17793-0 C3345

2025年8月刊行

3 ヤポネシアの動植物ゲノム

【目次】

第Ⅰ部 動物ゲノム	
1 ニホンオオカミゲノムからイヌの進化を解く	[寺井洋平]
2 ニワトリのゲノム解析	[松田優樹・山田洋平・新村 毅]
3 ネコのゲノム解析	[松本悠貴]
4 ヒグマのゲノム解析と動物地理的歴史	[増田隆一]
5 マウスの核ゲノム解析	[藤原一道]
6 ミトコンドリアゲノムの解析とハツカネズミの自然史	[鈴木 仁]

第Ⅱ部 植物ゲノム

7 日本ウルシと漆文化の起源	[菅 裕]
8 ヒョウタンの起源と伝播のゲノム解析	[遠藤俊徳・渡部 大]
9 アズキのヤポネシア起源仮説	[内藤 健]
10 サトイモのゲノム解析	[本橋令子]
11 ソバのゲノム解析	[フォーセット ジェフリ]
12 アワとキビのゲノム解析	[里村和浩]
13 日本のイネ在来品種のゲノム解析	[熊谷真彦・坂井寛章]



古代人のゲノム解析から探るヤポネシア人の成り立ち



篠田 謙一
(国立科学博物館館長) [編]

A5判/212ページ
978-4-254-17792-3 C3345

2025年7月刊行

2 ヤポネシアの古代人ゲノム

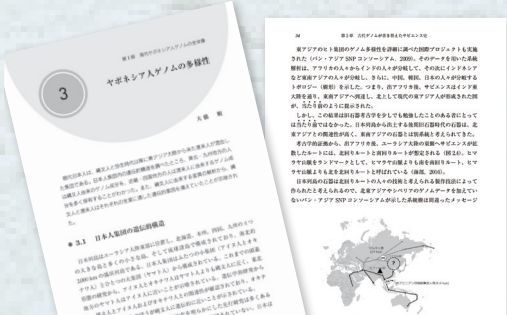
【目次】

第Ⅰ部 古代ゲノムから見た日本人の成り立ち

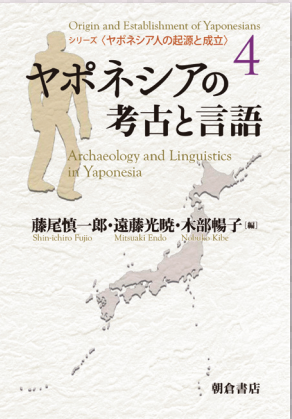
1 古代ゲノム研究 一概論およびヤポネシア人と大陸の関係	[篠田謙一]
2 古代ゲノムが書き替えたサピエンス史	[太田博樹]
3 港川人のミトコンドリアゲノム解析	[五條堀 淳・水野文月]
4 古代人のミトコンドリアゲノム解析	[安達 登]
5 古代人ゲノムから見た弥生・古墳時代の集団形成史	[神澤秀明]
6 オホーツク文化人のゲノム解析	[佐藤丈寛]

第Ⅱ部 古代ゲノム研究の展開

7 古代DNAの抽出、評価とその応用	[角田恒雄]
8 古代のウイルス	[西村瑠佳・井ノ上逸朗]
9 古代人のHLA解析	[細道一善]
10 日本人が受けた自然選択 ー現代人・古代人ゲノムの解析からー	[河田雅圭]
11 古代タンパク質の分析	[西内 巧]



考古学と言語、それぞれの観点からヤポネシア人の姿に迫る



藤尾 慎一郎
(国立歴史民俗博物館名誉教授) [編]

遠藤 光暁
(青山学院大学経済学部教授) [編]

木部 暢子
(人間文化研究機構機構長) [編]

A5判/244ページ
978-4-254-17794-7 C3345

2025年9月刊行

4 ヤポネシアの考古と言語

【目次】

〈考古分野〉

1 概論：先史時代とDNA分析	[藤尾慎一郎]
2 同位体を利用した年代測定	[坂本 稔・瀧上 舞]

第Ⅰ部 縄文・弥生・古墳時代のDNA分析

3 DNA分析と縄文墓制 ー岩手県蝦島貝塚例を中心にー	[山田康弘]
4 多様な弥生人 ー弥生人骨のDNA分析よりー	[藤尾慎一郎]
5 DNA分析から見た古墳時代の親族構造	[清家 章]

第Ⅱ部 古代DNAの地域的特徴と地域間交流

6 弥生時代日本海交流の拠点にみる集団像 ー鳥取県青谷上寺地遺跡出土人骨の検討ー	[濱田竜彦]
7 南九州地方遺跡の解析	[竹中正巳]
8 先史琉球人の南北移動とゲノム解析	[木下尚子]

〈言語分野〉

9 概論：日本語話者の移住過程	[遠藤光暁]
-----------------	--------

第Ⅲ部 日本語と周辺諸言語

10 朝鮮半島における諸言語話者集団の地理分布 ー5世紀前後を中心としてー	[遠藤光暁]
11 日本語の類型と重層性	[風間伸次郎]
12 アイヌ語の類型論的特徴と周辺諸言語との関係	[中川 裕]

第Ⅳ部 日本語方言の地域性

13 日本語諸方言のアクセントの形成過程 ー無アクセントを中心にー	[木部暢子]
14 南海道地域を中心とした西日本諸方言の系統関係試論	[中澤光平]
15 琉球諸語研究における集団遺伝学的手法の可能性	[狩俣繁久・和智仲是]
16 日琉語族の文法的変異の動機づけを探る	[中川奈津子]